

病院長 石川 典俊

今年も病院年報を皆様にお届けできることを大変うれしく思います。JCHO登別病院で働く全職員の日々の活動記録を御報告させていただきます。

JCHO登別病院は病床数110床、全国に57あるJCHO病院の中で55番目の小規模病院です。職員は常勤、非常勤合わせて183名、嘱託が47名、このメンバー全員で力を合わせ地域の医療を守っています。内科・整形外科を中心として、一日平均外来患者数が約90、入院患者数は約100で実働病床利用率90%を維持しています。

我が国は、人口動態をみると2022年の出生数が77万人余りで過去最低を更新、死亡数は157万人弱で年間80万人もの人口が減少する社会へと急速に変化しています。医療・介護の分野でも、それを必要とする高齢者人口が増加する一方、それを支える担い手の不足が進行しており、現場での人材確保と離職防止は喫緊の課題となっています。

本年3月に令和4年度職員意識調査がJCHO全体で実施され、20項目ある設問カテゴリーで病院別に得点順位が出されました。登別病院は「情緒的上司信頼」と「上司の公平対応」のカテゴリーで全国1位、「労務環境」「職務的上司信頼」「手続き上の公平性」で2位、「部署目標と取り組み」「組織ロイヤリティ(帰属意識)」で3位という嬉しい結果でした。離職の3大原因は「人間関係・労働環境・待遇」と言われている現状を考えれば、JCHO登別病院は働きやすい職場と言えるのではないのでしょうか。

昨年度に病院スタッフの出産が5件あり、5人の元気な赤ちゃんが誕生しました。育児休業をとったお母さん職員が述べ9人。更に令和4年10月に新設された「産後パパ育休」をフルに利用し4週間、育児に専念した新米パパもいました。

コロナ禍を経験しエッセンシャルワーカーの大切さを誰もが再認識しました。地域のインフラを守る使命を果たしつつスタッフ一人一人が人生のキャリアを積んで充実した日々を送ってくれればと思っています。それがまた、患者様への優しさと思いやる心を育んでくれるはずです。

これからもJCHO登別病院をよろしくお願いいたします。

JCHO
NOBORIBETSU

令和4年度

JCHO登別病院年報

目 次

巻頭言	1
目次	2
病院理念・基本方針	3
病院の組織及び職員の状況	
組織の状況	4
職員数	5
令和4年度 損益計算書	6
令和4年度 科別患者推移	7
診療科紹介	
整形外科	8
内科	9
リハビリテーション科	10
麻酔科	10
脳神経内科	11
泌尿器科	11
部署紹介	
看護部	12
西病棟	13
東病棟	14
外来	15
手術室	16
内視鏡室	17
薬剤部	18
診療放射線室	19
臨床検査室	20
リハビリテーション室	21
通所リハビリテーション トレイル	22
訪問リハビリテーション	23
栄養管理室	24
訪問看護ステーション	25
地域医療連携室	26
居宅介護支援センター	27
登別市地域包括支援センターゆのか	28,29
総務企画課 総務	30
総務企画課 経理	31
総務企画課 医事	32
健康管理センター	33
委員会紹介	
医療安全委員会	34
感染対策室	35
病床管理委員会	36
NST委員会	37
輸血療法委員会	38
褥瘡対策委員会	39

病院理念

1. 私たちは、健康と命を守ることを使命とし、良質で安全な医療を提供します。
2. 私たちは、笑顔と真心で患者さまに接します。
3. 私たちは、地域の医療機関と連携を密にし、医療と福祉を推進します。

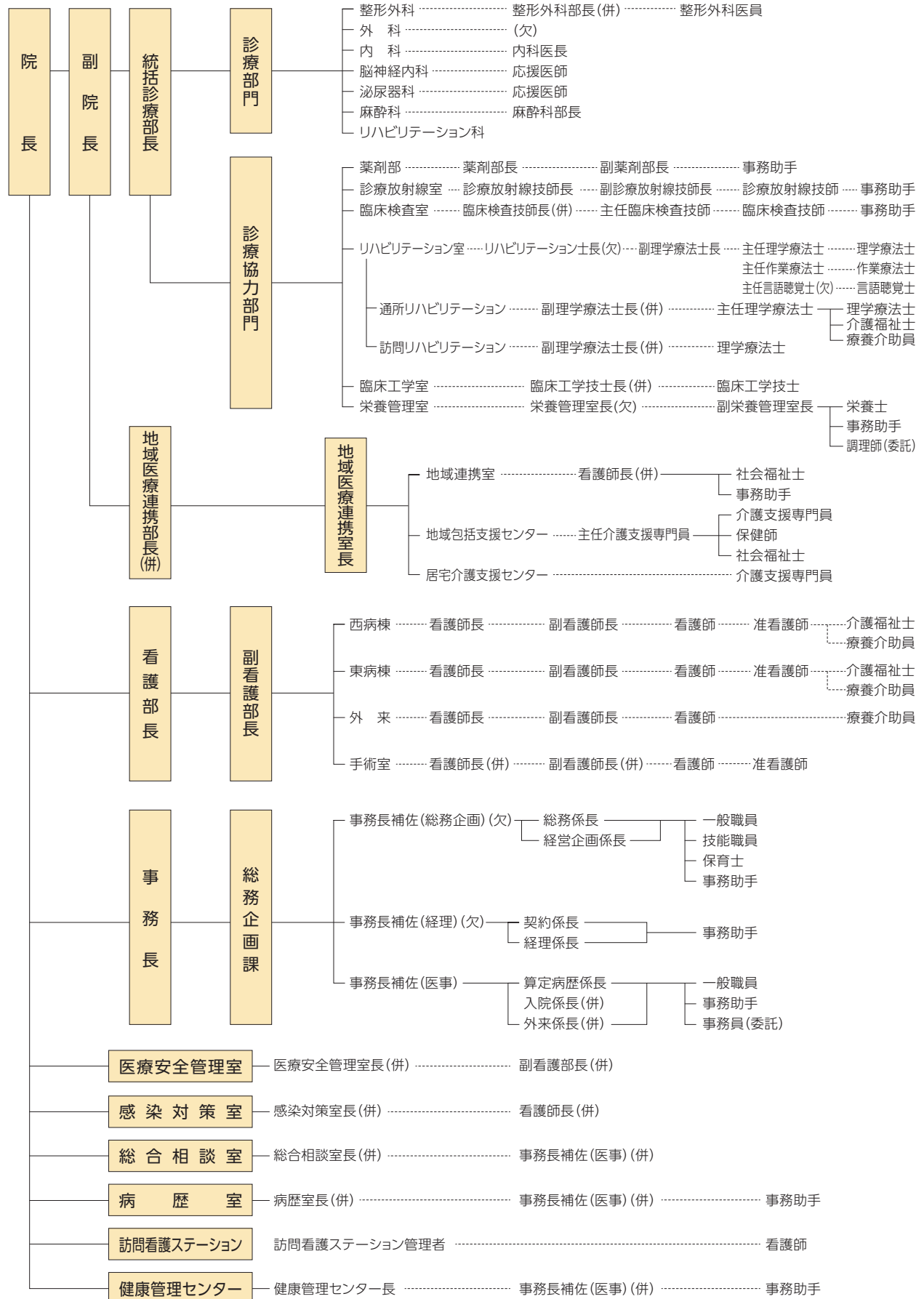
基本方針

1. 地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢化社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えます。
2. 疾病の予防から治療、社会復帰に至る総合的かつ一貫した病院運営をはかります。
3. 質の高いリハビリテーション病院としての社会的責任と役割を自覚し、北海道内の広い地域からの患者さまの信頼を得られるよう確固たる基盤を確立します。
4. 登別市内唯一の公的病院として、地域住民の安心と観光をはじめとする地域産業の発展に寄与できるよう、救急・急性期医療の体制の確立をはかります。

病院の組織及び職員の状況

① 組織の状況

令和4年4月1日現在



病院の組織及び職員の状況

② 職員数

令和4年4月1日現在

職 種	常勤職員数	非常勤職員数	非常勤職員数 (常勤換算)	常勤職員数 + 非常勤職員数	常勤職員数 + (常勤換算)
医 師	9			9	9.0
薬 剤 師	2			2	2.0
臨 床 検 査 技 師	2	2	1.6	4	3.6
診 療 放 射 線 技 師	3			3	3.0
栄 養 士	2			2	2.0
理 学 療 法 士	24	1	0.4	25	24.4
作 業 療 法 士	13			13	13.0
言 語 聴 覚 士	4			4	4.0
看 護 師	55	6	3.7	61	58.7
事 務 職	10	13	10.4	23	20.4
技 能 職	1	1	0.8	2	1.8
福 祉 職	3	5	3.8	8	6.8
介 護 福 祉 職	11			11	11.0
療 養 介 助 職		12	9.1	12	9.1
	139	40	29.8	179	168.8

令和4年度 損益計算書

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
経常収益	146,123	173,896	180,712	168,229	175,368	156,721	162,364	178,329	170,185	158,424	154,969	193,404	2,018,724
診療業務収益	142,945	170,606	171,801	162,505	170,508	151,476	157,124	173,051	165,000	153,196	149,710	185,644	1,953,566
医療収益	139,375	163,787	165,829	157,431	166,898	147,873	153,847	167,979	160,191	149,594	146,164	158,913	1,877,881
入院診療収益	112,979	128,236	123,184	121,211	125,233	112,726	118,664	121,502	121,549	110,634	115,434	120,724	1,432,076
室料差額収益(診療)	408	598	611	549	807	638	671	187	582	561	480	588	6,680
外来診療収益	20,086	27,234	33,609	26,772	31,476	26,586	25,010	36,042	29,969	32,199	24,089	27,844	340,916
訪問看護収益	2,032	2,096	2,374	2,350	2,312	2,131	2,030	1,873	2,261	1,910	1,887	2,149	25,405
保健予防活動収益	4,895	5,297	5,713	6,307	6,772	5,738	7,532	8,230	5,819	3,951	4,018	7,282	71,554
文書料	352	477	398	419	382	362	316	382	416	408	367	543	4,822
シ) その他	47	73	53	48	55	71	66	39	96	62	63	55	728
保険等査定減(△)	-1,424	-224	-113	-225	-139	-379	-442	-276	-501	-131	-174	-272	-4,300
補助金等収益	127	294	2,245	144	151	151	151	972	151	151	151	19,691	24,379
寄附金収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	90
その他診療業務収益	3,443	6,525	3,727	4,930	3,459	3,452	3,126	4,100	4,658	3,361	3,395	7,040	51,216
介護業務収益	2,703	2,784	8,280	4,701	4,672	4,596	4,779	4,820	4,757	4,759	4,771	5,789	57,411
介護収益	2,693	2,780	2,776	2,863	2,834	2,758	2,941	2,982	2,919	2,922	2,884	3,044	34,396
居宅介護支援 介護料収益	1,345	1,431	1,464	1,539	1,444	1,453	1,570	1,619	1,567	1,627	1,595	1,764	18,418
その他介護収益	1,348	1,349	1,312	1,324	1,390	1,305	1,371	1,363	1,352	1,295	1,289	1,280	15,978
介護報酬査定減(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他介護業務収益	10	4	5,504	1,838	1,838	1,838	1,838	1,838	1,838	1,837	1,887	2,745	23,015
地域支援センター 委託料収益	0	0	5,500	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834	1,833	1,833	2,713	22,883
その他介護業務収益	10	4	4	4	4	4	4	4	4	4	54	32	132
その他経常収益	475	506	631	1,023	188	649	461	458	428	469	488	1,971	7,747
経常費用	158,813	161,481	161,967	159,589	163,718	162,137	164,947	170,425	204,671	174,149	167,313	201,488	2,050,698
診療業務費	154,577	156,244	157,257	155,192	159,266	157,506	160,476	165,923	199,635	169,467	162,667	195,838	1,994,048
給与費	84,047	83,524	86,088	84,449	85,144	86,113	87,351	89,917	117,124	89,584	89,116	101,297	1,083,754
材料費	16,273	20,833	20,762	18,304	20,325	19,297	20,166	20,100	20,879	22,316	21,441	18,339	239,035
委託費	16,182	15,769	15,447	15,944	16,963	14,795	15,477	17,056	16,945	15,866	13,694	16,345	190,483
設備関係費	26,786	25,923	26,752	26,632	27,140	26,777	26,339	26,843	31,363	27,175	26,444	44,378	342,552
研究研修費	58	51	59	96	44	44	62	44	44	47	44	44	637
経 費	11,231	10,144	8,149	9,767	9,650	10,480	11,081	11,963	13,280	14,479	11,928	15,435	137,587
介護業務費	3,971	4,647	4,272	4,087	4,084	4,285	4,073	4,135	4,621	4,314	4,300	5,275	52,064
給与費	3,510	3,607	3,837	3,699	3,644	3,763	3,668	3,700	4,199	3,853	3,896	4,497	45,873
材料費	2	1	6	16	1	4	2	1	7	4	7	4	55
委託費	45	41	37	37	35	49	55	60	70	53	49	48	579
設備関係費	223	473	117	68	216	162	150	148	154	223	170	162	2,266
研究研修費	0	0	0	86	4	57	0	38	0	0	0	0	185
経費	191	525	275	181	184	250	198	188	191	181	178	564	3,106
その他経常費用	265	590	438	310	368	346	398	367	415	368	346	375	4,586
経常収支差	-12,690	12,415	18,745	8,640	11,650	-5,416	-2,583	7,904	-34,486	-15,725	-12,344	-8,084	-31,974
臨時利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨時損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	851	851
総経常収支差	-12,690	12,415	18,745	8,640	11,650	-5,416	-2,583	7,904	-34,486	-15,725	-12,344	-8,084	-32,825

(単位：千円)

令和4年度 科別患者推移

入院

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実日数	診療実日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
整形外科	延べ患者	1,888	2,037	1,990	2,069	2,137	1,755	1,655	1,831	1,857	1,824	1,908	1,976	22,927
	入院数	43	42	44	49	39	34	43	31	39	33	42	38	477
	退院数	36	41	45	38	40	48	37	30	44	19	40	45	463
	1日平均	62.9	65.7	66.3	66.7	68.9	58.5	53.4	61.0	59.9	58.8	68.1	63.7	62.8
内科	延べ患者	447	454	433	446	543	591	533	629	619	525	328	461	6,009
	入院数	25	28	26	28	34	36	32	39	39	12	24	32	355
	退院数	25	29	29	28	31	36	33	33	47	15	20	29	355
	延べ患者	14.9	14.6	14.4	14.4	17.5	19.7	17.2	21.0	20.0	16.9	11.7	14.9	16.5
リハビリテーション科	1日平均	580	631	543	521	489	558	629	570	573	655	592	586	6,927
	入院数	6	4	3	5	6	7	7	3	7	2	6	5	61
	退院数	5	5	5	8	5	8	5	5	5	4	5	11	71
	診療実日数	19.3	20.4	18.1	16.8	15.8	18.6	20.3	19.0	18.5	21.1	21.1	18.9	19.0
合計	延べ患者	2,915	3,122	2,966	3,036	3,169	2,904	2,817	3,030	3,049	3,004	2,828	3,023	35,863
	1日平均	97.2	100.7	98.9	97.9	102.2	96.8	90.9	101.0	98.4	96.9	101.0	97.5	98.3
	病床利用率	88.3%	91.6%	89.9%	89.0%	92.9%	88.0%	82.6%	91.8%	89.4%	88.1%	91.8%	88.7%	89.3%

外来

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科	診療実日数	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
	延べ患者	912	938	1,073	950	1,011	993	965	998	1,034	920	946	1,074	11,814
	1日平均	45.6	49.4	48.8	47.5	46.0	49.7	48.3	49.9	51.7	48.4	49.8	48.8	48.6
内科	診療実日数	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
	延べ患者	584	654	662	602	914	698	667	859	894	710	535	723	8,502
	1日平均	29.2	34.4	30.1	30.1	41.5	34.9	33.4	43.0	44.7	37.4	28.2	32.9	35.0
脳神経内科	診療実日数	4	3	5	4	3	5	4	3	4	4	3	4	46
	延べ患者	57	54	81	56	60	83	68	58	64	54	59	72	766
	1日平均	14.3	18.0	16.2	14.0	20.0	16.6	17.0	19.3	16.0	13.5	19.7	18.0	16.7
泌尿器科	診療実日数	4	3	5	4	5	4	4	4	4	4	4	5	50
	延べ患者	66	62	103	71	79	91	81	89	91	68	67	111	979
	1日平均	16.5	20.7	20.6	17.8	15.8	22.8	20.3	22.3	22.8	17.0	16.8	22.2	19.6
合計	延べ患者	1,619	1,708	1,919	1,679	2,064	1,865	1,781	2,004	2,083	1,752	1,607	1,980	22,061
	1日平均	81	89.9	87.2	84	93.8	93.3	89.1	100.2	104.2	92.2	84.6	90	90.8

診療科紹介

独立行政法人 地域医療機能推進機構 登別病院

JCHO登別病院

NOBORIBETSU HOSPITAL

整形外科

職員紹介



小澤 慶一
(統括診療部長)



江崎 克樹
(医員)



長谷川晃大
(医員)



山下 道永
(医員)

特 徴

常勤医師4名で外来診療を毎日午前中実施している。午後は手術を実施している。

白老町立病院、伊達赤十字病院の外来診療の応援も行っているほか、当院の救急患者対応として整形外科疾患については365日24時間の診療体制をとっている。

診療対象疾患

整形外科疾患全般(骨折・その他外傷・脊椎疾患・関節疾患など)

診療実績

- ・ 外来1日平均患者数48.6人、365日24時間の救急医療の実施。
- ・ 入院1日平均患者数62.8人、四肢の骨折に対する手術、関節疾患に対する人工関節手術、脊椎の手術を主に行い、術後・外傷後のリハビリテーションにも力を入れている。
- ・ 令和4年度手術件数421件(外来手術を含む)、うち手術室で行われた手術260件、うち全身麻酔による手術件数155件

内 科

職員紹介



石川 典俊
(院長)



横山 豊治
(副院長)



代田 充
(医長)

特 徴

令和4年度より常勤医師が1名増員となり、常勤医師3名で外来診療を毎日午前中実施し、救急の受け入れも行っている。また、一般的な内科疾患に加え、消化器特殊疾患の診断・診療も行い、当院で併設している健康管理センターの二次健診も行っている。

診療対象疾患

内科疾患全般(高血圧症、糖尿病、脂質異常症、消化器特殊疾患など)

診療実績

- ・ 外来1日平均患者数35.0人、一般内科として内科全般の診療を行い、救急の受入も行っている。
- ・ 入院1日平均患者数16.5人、肺炎等の治療や胃瘻造設・交換を主に行い、大腸内視鏡検査も行っている。

リハビリテーション科

職員紹介



横山 豊治
(副院長)

特 徴

リハビリテーション科医師1名と地域医療研修医で入院診療(回復期リハビリテーションを主として)を実施している。他院より脳血管疾患等の治療後のリハビリを目的とした患者の紹介を受けて、多職種協同して在宅復帰を目標とした計画的なリハビリテーションを実施している。

診療対象疾患

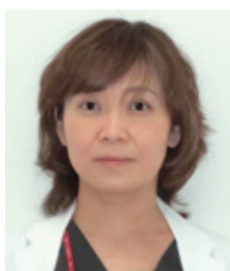
リハビリテーション対象疾患(脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、廃用症候群など)

診療実績

・入院1日平均患者数19.0人、脳血管疾患等の治療後及び肺炎等の治療による廃用症候群に対する計画的なリハビリテーションを実施している。

麻 酔 科

職員紹介



鎌田 紀子
(麻醉科部長)

特 徴

常勤医師1名で入院患者のうち手術実施予定者に対する診察及び手術中の麻酔管理を実施している。

診療対象疾患

整形外科手術対象患者

診療実績

・令和4年度手術室で行われた手術260件、うち麻酔科管理による手術件数213件

脳神経内科

特 徴

関係大学からの派遣医師により外来診療を毎週木曜日の午前中実施している。

診療対象疾患

脳神経内科疾患全般（てんかん、脳卒中、パーキンソン病など）

診療実績

- ・ 外来1日平均患者数16.7人、脳神経内科疾患全般の診療を行っている。

泌尿器科

特 徴

関係大学からの派遣医師により外来診療を毎週水曜日の午前中実施している。

診療対象疾患

泌尿器科疾患全般（前立腺肥大症、前立腺がん、膀胱機能障害など）

診療実績

- ・ 外来1日平均患者数19.6人、泌尿器科疾患全般の診療を行っている。

部 署 紹 介

独立行政法人 地域医療機能推進機構 登別病院

JCHO登別病院

NOBORIBETSU HOSPITAL

看護部

職員紹介

伊藤 早苗（看護部長）

津野 幸子（副看護部長）

看護管理体制：看護部長1名、副看護部長1名、看護師長5名（病棟2名、外来・手術室1名、訪問看護1名、地域連携室1名）副看護師長5名（病棟4名、外来・手術室1名）

業務内容

- ・看護サービス向上に向けた業務改善
- ・看護職員および看護学生の教育
- ・労務環境の改善・管理
- ・人材確保（インターンシップ等）

令和4年度実績

新型コロナワクチン集団接種看護師派遣（計3回）

看護部主催研修会開催（ラダー研修9回、新人研修21回、補助者研修6回）

看護研究発表（院内）3題

キャリアラダー付与5名（レベルⅠ：2名 レベルⅡ：1名 レベルⅢ：2名）

JCHO病院に派遣看護師協力依頼

6施設9名から看護師の応援をして頂きました

相模野病院、仙台病院、北海道病院、千葉病院、星ヶ丘医療センター、秋田病院

日鋼記念看護学校1校より、臨地実習の受け入れ

令和4年度総括

業務量調査を実施し、看護の質向上や労働環境改善に向けた取り組みを継続的に行っています。

感染対策を取りながら、院内、院外研修に参加、臨床実習を受け入れ、人材育成に努めました。

多職種協働の入退院支援、ベッドコントロールを行い、高い病床稼働率の維持に繋げることができました。

発熱外来や、新型コロナワクチン集団接種に看護師派遣協力をするなど地域に貢献しました。

西病棟(急性期一般病床40床・地域包括ケア病床15床)

職員紹介

小林 美喜枝（看護師長）	看護師18名
西谷 洋美（副看護師長）	非常勤看護師1名
深澤 孝子（副看護師長）	介護福祉士2名
	療養介助員2名

業務内容

当部署は、一般病棟の中に地域包括ケア病床を持ち、整形外科・リハビリテーション科・内科の混合病棟です。令和4年4月より消化器内科の医師が赴任し、新たに胃カメラ、大腸カメラの検査入院や消化器症状の患者の入院を受け入れています。

整形外科では、骨折や変性疾患の患者が多く、手術前後の疼痛緩和に努め、安心して手術が受けられるようにケアをおこなっています。また、疼痛の状況に合わせ早期にリハビリに取り組んでいます。

リハビリテーション科、内科、消化器内科の患者には、予定通り安心して検査が行えるように支援をおこなっています。

当院のある西胆振地区では、登別は37.0%、白老は47.0%と高齢化率が高く、高齢者夫婦、独居、認知症の患者も多く入院しています。受け持ち看護師は、患者、家族の意向を尊重し、できるだけ住み慣れた自宅や施設に退院できるように院内外の多職種と協力し、退院調整に取り組んでいます。

令和4年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院患者数	74	74	73	81	79	77	82	73	85	47	72	75	892
退院患者数	41	47	48	49	47	57	52	41	65	30	38	47	562
一般病床 平均在院日数	14.9	17.4	16.5	16.9	15.5	13.4	14.8	16.1	14.8	25.9	17.1	14.9	16.5
地域包括病床 在宅復帰率	75.0%	94.4%	78.3%	94.7%	84.6%	88.2%	90.5%	83.3%	75.9%	90.9%	88.9%	86.4%	85.9%
病床利用率	84.8%	86.2%	83.9%	78.8%	86.9%	79.9%	72.9%	85.0%	85.0%	86.5%	85.4%	80.6%	83.0%
手術件数	14	25	26	21	23	15	24	13	26	24	26	23	260

※平均在院日数・在宅復帰率については単月実績

令和4年度総括

令和4年度の診療報酬改定により、「急性期一般基本料4」の看護必要度の22%～18%の変更「重症度、医療・看護必要度」のA項目の評価見直しがありました。また、「地域包括ケア入院医療管理料2」においては、在宅復帰率の増加、入退院支援加算1の届出、看護必要度の14%～12%の変更がありました。

これらを踏まえ入院基本料が維持できるよう、ベッドコントロールを行い、算定基準をクリアすることができました。

4月より、消化器内科の医師が赴任し、大腸カメラ・内視鏡のポリープ切除目的や内科の患者も増えました。内視鏡的大腸ポリープ切除術の増加により、「短期滞在手術等基本料3」対象手術も増加しています。短期入院により早期に退院する患者もいましたが、病床利用率は80%維持できています。また、新たな消化器のクリティカルパスを作成し、患者が安心して、検査が受けれるようにケアを行いました。

退院支援においては、患者・家族の意向を取り入れ看取りの患者を当院の訪問看護ステーションと連携し、自宅へ退院させることができました。また、社会福祉士の協力の元、多職種、本人家族とカンファレンスを行い介護支援等連携指導料の算定基準をみることができています。このことは、地域住民の生活を支えるための在宅療養支援につながっていくと思います。

新型コロナウイルス感染症による入院制限がなかったことで、感染予防に努め入院を受け入れました。80%以上の病床利用率を維持できています。今年度も地域からの入院要請を求められている病院の役割に貢献できたと考えます。

東病棟(回復期リハビリテーション病床・55床)

職員紹介

平田 恵美子（看護師長）	社会福祉士1名
伊藤 洋介（副看護師長）	看護師13名
山村 操（副看護師長）	非常勤看護師3名
	介護福祉士1名
	療養介助員7名

業務内容

当部署は回復期リハビリテーション病棟です。脳血管疾患または整形外科疾患の手術後などの急性期を脱し、機能維持、向上のため集中的なリハビリテーションを実施しています。

日々の入院生活もリハビリ訓練の一環として、日常生活を患者様が自力で行えるよう支援しています。また、障害の受容に関して精神的なサポートを行いながら、患者様の持てる機能を最大限に引き出し、退院後は最良の場所で生活を送ることができるように、院内外の専門職が連携してチーム医療を行っています。その中で看護職員はチーム医療の調整役、診療の補助など幅広い役割を担うことができるように日々努力しています。

令和4年度実績

病床利用率	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
	91.9%	96.9%	95.8%	99.2%	98.9%	96.1%		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	92.3%	98.6%	93.8%	89.7%	98.2%	96.7%	95.7%	

在宅復帰率 (単月)	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
	66.7%	75.0%	79.3%	87.0%	71.4%	76.5%		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	72.7%	88.5%	79.3%	100%	73.1%	86.7%	79.7%	

令和4年度総括

コロナ禍が続く中で、家屋調査の減少、家族との面会制限も続いていました。カンファレンスを充実し、多職種間で退院に向けた問題点の抽出、方向性を共有し、患者・ご家族に説明し、意向の確認や提案を行いました。昨年に引き続きACP（Advance Care Planning）の取り組みとして、各自が事例報告書を作成し、チーム内で看護の振り返りを行い、情報の共有を図りました。また、看護研究では病棟看護師の退院支援実践能力の特徴を分析し、強みや弱みを明確にし、看護の質の向上に努めました。

令和5年1月には病院で初となるクラスターの発生がありました。そのため病床稼働率は一時的に90%を下回りましたが、感染予防策を強化し入院受け入れが継続でき、年間を通して高い稼働率を維持し、地域のニーズに応えることができました。

外来

職員紹介

佐藤 香（看護師長）
阿閉 友美（副看護師長）
看護師4名
非常勤看護師1名

業務内容

診療科：内科・整形外科・泌尿器科（週1回）・脳神経内科（週1回）
糖尿病専門外来（月1回）・発熱外来（13:00～ 月～金）

- ・各診療科の診療の補助、採血等の実施
- ・放射線検査・処置（造影検査・胃ろう交換・嚥下造影など）の介助
- ・各ワクチン接種
- ・65歳以上の患者に対し、介護保険申請状況・サービス利用状況の確認
- ・在宅介護における相談
- ・近隣地域介護サービス事業所・訪問看護ステーションとの連携

令和4年度実績

外来
診療者数

	整形外科	内 科	脳神経内科	泌尿器科	合 計
令和4年度	11,815	8,485	766	979	22,045
令和3年度	12,408	6,407	907	922	20,644
前年度比	-593	2,078	-141	57	1,401

その他の
診療

	発熱外来	子宮がん検診	救急車搬入
令和4年度	1,972	204	308
令和3年度	695	161	267
前年度比	1,277	43	41

令和4年度総括

昨年に続き、外来受診者数が増加しました。地域住民の方が通いやすくなった事に加え、今年度より消化器内科常勤医師、糖尿病専門外来が新たに加わったことが大きな要因と考えます。

受診患者は高齢の方も多く、地域の介護サービス事業所等との連携を図りながら、住み慣れた地域・自宅での生活が継続できるよう支援してきました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大もありましたが、感染対策の強化を行い、日中・夜間を問わず救急患者の受け入れも行っていました。発熱外来では、多くの発熱患者の受け入れも行うことができました。

手術室

職員紹介

佐藤 香（看護師長）（外来兼務）
阿閉 友美（副看護師長）（外来兼務）
看護師3名（外来兼務）
非常勤看護師1名

業務内容

整形外科手術

膝・股関節・脊椎等の変性疾患及び上肢・下肢等の外傷手術

当院では、外来・手術室が同一の部署となっています。そのため、手術対象患者には外来受診時・救急搬入時より関わり、安心して手術が行われるようサポートしています。

令和4年度実績

整形外科手術

	人工関節	脊椎手術	外傷等	その他	局麻等小手術	合 計
令和4年度	40	11	145	30	34	260
令和3年度	25	12	163	41	35	276
前年度比	15	-1	-18	-11	-1	-16

令和4年度総括

前年度に比べ、手術件数は若干減少しました。

内訳では、変性疾患は増加、脊椎疾患は横ばい、外傷は若干の減少がみられました。

前年度、新型コロナウイルス感染症の影響もあり変性疾患の手術件数が減少したことが今年度増加に繋がったと考えます。

全体的には、例年通りの件数と考えます。

内視鏡室

職員紹介

佐藤 香（看護師長）（外来兼務）
看護師2名（外来兼務）
非常勤看護師1名（外来兼務）

業務内容

- ・健康診断及び外来患者の上部消化管検査
- ・大腸の検査・内視鏡的ポリープ切除
- ・内視鏡的異物除去術・止血術等
- ・胃ろう造設

令和4年度実績

	上部内視鏡	下部内視鏡 ()ポリペク	胃ろう造設	合 計
令和4年度	1,430	159 (68)※	9	1,598
令和3年度	1,297	21	21	1,339
前年度比	133	138	-12	259

※()内は再掲となります

令和4年度総括

常勤消化器内科医師・看護師が増員されたことにより、内視鏡実施枠を増加することができ、上部内視鏡・下部内視鏡ともに検査件数を増加することができました。また、ポリープ切除術・止血処置等が可能となりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大もありましたが、感染対策に取り組みながら実施することで、継続した業務が行えました。

薬剤部

職員紹介

阿保 信義（薬剤部長）
堀 良行（副薬剤部長）
非常勤薬剤助手1名

業務内容

調剤業務

病棟業務／薬剤管理指導業務・チーム医療参加（ICT、NST、褥瘡回診）

D I 業務／医薬品適正使用・電子カルテ薬品マスター管理（在庫管理業務含）、疑義紹介、プリアボイド業務

令和4年度実績

薬剤管理指導 I・II 算定件数：1,179件 総計金額：4,205,200円

I：542件、II：637件、麻薬加算：3件、退院時指導：24件

入院処方箋枚数：13,786枚

外来院内処方箋枚数：1,462枚

入院注射箋枚数：9,015枚

外来注射箋枚数：4,597枚

持参薬鑑別件数：1,189件

令和4年度総括

薬剤管理指導業務は、前年度比＋29件：101,150円の増収であった。

在庫管理

	購入額	損耗額	払出額	繰り越し	在庫日数
令和4年度 2022	83,777,597	208,030	83,511,706	3,426,893	15.0
令和3年度 2021	69,747,214	268,185	69,283,410	3,287,961	17.3
令和2年度 2020	51,060,600	358,261	56,736,721	3,100,727	19.9
令和元年度 2019	58,908,566	633,816	58,327,571	3,421,227	21.4
平成30年度 2018	55,062,995	572,856	55,958,035	3,471,320	22.6

購入額は増加しているものの、損耗額は徐々に減少している。

年度末在庫日数も、15.0日分に改善した。

診療放射線室

職員紹介

福岡 深治（診療放射線技師長）
秋元 聡（副診療放射線技師長）
診療放射線技師1名
非常勤事務員1名

業務内容

- ・診療部門においては、一般撮影・ポータブル撮影（病室及びOP室）・骨密度測定検査、CT・MRI・乳房撮影・造影検査を行っています。
- ・健診部門においては、胸部X線撮影・胃バリウム検査・骨密度測定検査・乳房撮影・脳MRIを行っています。
- ・他院から依頼のCT検査・MRI検査も行っています。

令和4年度実績

検査種	一般撮影	乳房撮影	CT	MRI	骨密度	ポータブル	造影検査
令和4年度	12,882	512	1,225	1,345	2,266	322	529
令和3年度	13,307	534	1,147	1,132	2,040	335	474
令和2年度	11,912	370	894	1,078	1,495	297	444
前年度比	96.8%	95.9%	106.8%	118.8%	111.1%	96.1%	111.6%

令和4年度総括

令和3年度は前年度と比較してすべての検査項目で増加しましたが今年度は一般撮影、乳房撮影、ポータブル撮影で減少を示した反面、CT、MRI、骨密度、造影検査で増加しました。新築の影響での患者数が増加した前年度とは違い、それぞれのモダリティごとのニーズに合わせた検査数の増減が現れたものと考えます。

臨床検査室

職員紹介

五十嵐 香（主任臨床検査技師）

臨床検査技師1名

非常勤臨床検査技師2名

非常勤検査助手1名

業務内容

- ・検体検査（生化学・免疫・血液・一般・輸血）
- ・生理検査（心電図・ホルター心電図・超音波・肺機能・聴力・眼底・脈波・神経伝導等）
- ・発熱外来（抗原検査）
- ・外来・入院・健診採血管準備、検体回収
- ・チーム医療参加（NST、ICT、褥瘡）
- ・健診業務（検体検査・生理検査・採血）※職員健診含む

令和4年度実績

	外来・入院（前年比）	健診（前年比）
検 体 検 査	188,286件(108%)	36,432件(106%)
心 電 図 検 査	1,170件(88%)	2,274件(103%)
ホルター心電図検査	277件(84%)	
超 音 波 検 査	422件(113%)	723件(108%)
そ の 他 生 理 検 査	65件(108%)	3,403件(103%)
新型コロナ抗原検査	4,966件(331%)	
合 計	195,186件	42,832件

令和4年度総括

検査件数は外来・入院検査188,286件(前年比108%)、健診36,432件(前年比106%)となり、令和4年度は検体検査・生理検査ともに検体数が若干増加しました。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大幅に検査数も増加しました。

生理検査では外来・入院での超音波検査が増加しました。

リハビリテーション室

職員紹介

成田 元気（副理学療法士長）	理学療法士15名
石井 亮太（主任理学療法士）	作業療法士11名
大山 聡（主任理学療法士）	言語聴覚士 4名
大波 聡司（主任理学療法士）	
池田 祐志（主任作業療法士）	
菊地 由洋（主任作業療法士）	

業務内容

整形疾患、脳血管疾患、廃用症候群のリハビリテーションを実施。

急性期一般、地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟に職員を配置。急性期一般病棟では、整形外科の大腿骨頸部骨折、人工関節置換術後等の患者へ手術の翌日より365日リハビリを提供しています。地域包括ケア病床は15床のベッドに対して理学療法士1名を専従登録し、リハビリテーションだけでなく退院支援にも力を入れております。

回復期リハビリテーション病棟では、早期の自宅退院を目標に各種カンファレンスや回診を実施しています。日常生活動作能力の向上を目標に、病棟でのADL 訓練やADL 室を使用した家事動作訓練、復職に向けた作業、自動車運転評価等を実施しております。

退院前には多職種カンファレンスや家屋環境調査等も実施しております。

言語聴覚士による摂食機能評価や言語機能・嚥下機能回復訓練等も実施しております。

令和4年度実績

【職種別実績(単位数)】

	理学療法	作業療法	言語聴覚	合 計	収 入
令和4年度	71,206	47,487	16,046	134,739	272,681,800
令和3年度	69,438	50,080	17,540	137,058	281,823,550
前年度比	731	-535	-1,524	-1,328	-9,141,750

【病棟別実績(件数)】

	急性期一般	地域包括ケア	回復期	合 計
令和4年度	10,742	3,003	35,254	48,999
令和3年度	10,011	3,538	36,778	50,327
前年度比	731	-535	-1,524	-1,328

【病棟別実績(単位数)】

	急性期一般	地域包括ケア	回復期	合 計
令和4年度	26,345	6,827	101,567	134,739
令和3年度	24,911	7,678	104,469	137,058
前年度比	1,434	-851	-2,902	-2,319

令和4年度総括

令和4年度はPT1名増員したことで、理学療法の単位数は前年度よりも増加しました。

しかし、それ以外は新型コロナウイルス感染症によるクラスター等の影響により、全体的な単位数は前年度比2.7%の減少となりました。

新型コロナウイルス感染症流行期においては、面会停止によるご家族との面会が行えない事に対して入院中のリハビリ場면을動画撮影をし、ご家族へ視聴してもらうなど工夫をして対応しておりました。

通所リハビリテーション トレユ

職員紹介

成田 可奈（主任理学療法士）

理学療法士1名

介護福祉士2名

療養介助員2名

業務内容

- ・介護保険利用者に対し、院内に通所して頂きリハビリテーションサービスを提供。
- ・利用時間は30分以上90分未満で1日2クール行い、短時間リハビリ特化型体制で実施。
- ・身体機能・バランス能力、生活能力、脳機能へ対して個別訓練、集団訓練を実施。

令和4年度実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用 実人数	要支援	52	51	51	53	52	50	54	57	59	56	62	65	662
	要介護	30	27	28	30	30	31	19	31	28	29	29	29	341
述べ 回数	要支援	217	204	248	235	231	230	239	238	240	254	258	324	2,918
	要介護	108	112	135	128	147	133	137	140	116	113	138	136	1,543
合計		325	316	383	363	378	363	376	378	356	367	396	460	4,461
令和3年度合計		395	325	413	365	389	385	380	345	361	333	270	318	4,279
前年比		-70	-9	-30	-2	-11	-22	-4	33	-5	34	126	142	182

令和4年度総括

令和4年度は新型コロナウイルス感染症流行による利用控えが収束し、利用者実人数は令和4年4月に82名から令和5年3月には過去最大の94名まで増加することが出来ました。

当事業所は目標を達成してサービスを終了する「卒業」を目指す事を事業方針として掲げていますが、利用者アンケート調査では、86.5%の利用者が目標を持って（「何となく目標を持っている」も含め）取り組むことが出来ていると回答。「卒業を意識しているか」の設問では、約25%の利用者が意識していると回答がありました。終了(卒業)に対する不安を抱える利用者は43%と多い状況ではありましたが、今後も目標の立案だけでなく、その後のフォローも考えたサービスの提供を実施していきたいと考えております。

訪問リハビリテーション

職員紹介

理学療法士3名

業務内容

主に介護保険利用者に対し、ご自宅等へ訪問しリハビリテーションサービスを提供。

実際の生活場面の中で日常生活動作訓練・身体機能訓練・家事動作訓練・外出訓練等を行います。また、住環境整備や家屋改修の提案・福祉用具の選定や使用練習等も行います。

退院直後の方に対しては、短期集中リハビリテーションによる週2回以上の訪問も実施します。ご家族に対しては、介助方法の指導や様々なご相談に対応しております。

専従の理学療法士3名により多職種連携に力を入れ、質の高いチームケアの提供を目指しています。

令和4年度実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問 件数	要支援	75	86	99	100	79	88	92	105	91	77	70	81	1,043
	要介護	137	165	208	175	167	183	193	192	198	173	200	210	2,201
合 計		212	251	307	275	246	271	285	297	289	250	270	291	3,244
令和3年度合計		290	252	311	289	269	269	283	281	280	241	243	294	3,302
前年比		-78	-1	-4	-14	-23	2	2	16	9	9	27	-3	-58

述べ 回数	要支援	155	180	209	211	168	188	197	223	186	156	140	162	2,175
	要介護	305	367	454	386	379	409	428	425	447	391	456	472	4,919
合計		460	547	663	597	547	597	625	648	633	547	596	634	7,094
令和3年度合計		614	535	654	615	581	581	622	610	605	527	533	644	7,121
前年比		-154	12	9	-18	-34	16	3	38	28	20	63	-10	-27

令和4年度総括

令和4年度は昨年度から引き続き、利用者の目標達成での終了（卒業）に向けた取り組みを実施し、長期利用者の中からの終了（卒業）者を出す事が出来ました。

結果として長期利用による減算対象者を予定よりも減少させることが出来ました。全体的な訪問延べ回数は前年度比で-1.4%ではありましたが、訪問時間を60分（3回）の利用者を増やし、サービス内容の充実を図る事が出来ました。

栄養管理室

職員紹介

瀧川 博子（副栄養管理室長）
管理栄養士1名
非常勤事務員1名

給食委託業者：日清医療食品(株)
栄養士1名、調理師5名、調理員4名（計10名）

業務内容

- ・栄養食事指導（外来栄養食事指導、入院時・退院時栄養食事指導指導）
- ・入院患者に対する栄養評価と栄養管理
- ・栄養サポートチームによる栄養介入
- ・大量調理マニュアルに基づいた安全な食事の提供

令和4年度実績

	実績	前年比
総 提 供 食 数	100,824食	-5,021食
特 別 食 加 算 率 平 均	70.6%	-5.5%
在宅患者訪問栄養食事指導	0件	-20件
外 来 栄 養 食 事 指 導	492件	+263件
入 院 栄 養 食 事 指 導	537件	-78件

令和4年度総括

栄養管理室人事異動があり、訪問栄養指導の中止や書類整備や献立変更、食提供体制の見直しがされましたが、食事への患者満足度が下がり今後の検討事項となりました。

そして今期、新型コロナウイルス感染症や内科勤務医の着任などによる入院患者層の変化があり食事提供内容の変化があったのも特徴でした。このような中、着任医師や糖尿病専門派遣医からの外来栄養依頼が増え、外来栄養食事指導件数は大きく増加しました。また、外来指導の継続や退院時栄養指導（2回目栄養指導）を意欲的に実施できました。

訪問看護ステーション

職員紹介

管理者 吉田 加代子（看護師長）

看護師2名

業務内容

在宅療養者の療養上の世話、医師の指示による医療処置、訪問診療同行・同席、緩和ケア、在宅での看取り、介護相談・助言、365日24時間体制での緊急時対応、退院前カンファレンスへの参加、ケアカンファレンスの実施、部署内会議や研修会、事例検討会、デスカンファレンス、院内・看護部委員会への参加

令和4年度実績

訪問回数(実人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護保険	189(43)	190(46)	203(44)	187(44)	195(45)	193(48)	179(45)	171(45)	174(45)	192(45)	181(45)	212(45)
医療保険	61(11)	59(12)	74(14)	64(13)	67(13)	51(12)	48(10)	63(12)	59(10)	38(9)	36(10)	43(11)
合 計	250(54)	249(58)	277(58)	251(57)	262(58)	244(60)	227(55)	234(57)	233(55)	230(54)	217(55)	255(56)

医療機関別指示書人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
自 院	28	28	29	29	31	31	30	28	27	26	26	26	339
他 病 院	14	16	15	15	15	17	13	14	13	15	16	16	179
住宅支援診療所	3	4	4	3	2	2	2	1	1	0	0	1	23
その他診療所	9	10	10	10	10	10	10	12	14	13	13	13	134

令和4年度総括

悪性疾患や心不全の増悪、老衰など終末期の利用者が10名程度と例年よりも多く、アドバンスケアプランニング（ACP）の重要性を再認識しながら「最期をどこでどのように過ごしたいのか」利用者の意向に沿って支援しました。最期は入院して逝去された利用者もいましたが、2名の利用者を在宅でお看取りさせていただきました。また、看護研究では、今後の終末期ケアに活かしたいと考え「代理意思決定に苦悩する主介護者を支援した在宅看取りまでの家族看護を振り返る」に取り組み、インタビューを通して介護者の思いを聞くことができました。

昨年度に続き、コロナ禍において、感染対策に留意しながら訪問看護を行いました。また、全国的に地震や雨などの災害が多かったことやコロナ禍において、業務継続計画（BCP）の意識を高め、その取り組みの一つとして、独自に作成した訪問調整用紙を活用し会議などにて情報共有を行いました。

地域連携室

職員紹介

長田 牧子（地域連携室長・看護師長）
社会福祉士1名
非常勤事務員1名

業務内容

【前方支援】

1. 入院・外来紹介・逆紹介への対応、連絡調整、返書管理。
2. 患者情報の確認及び問い合わせへの対応（電話対応等）
3. 他院受診時の予約管理
4. 渉外業務：連携先との情報交換、定期的な訪問による関係構築
5. 診療情報提供書（紹介状・返書）の管理及び作成
6. レスパイト入院の予約
7. 管理業務：地域協議会の運営
《担当》 地域連携室長

【後方支援】

1. 転院(後方病院) 調整
2. 退院支援過程における関係機関との連携や院内外が多職種連携
《担当》 社会福祉士

令和4年度実績

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
新規患者数	2,596	3,498	4,068	5,163
紹介患者数	891	1,049	1,018	967
逆紹介患者数	970	841	1,037	1,020

【地域協議会】新型コロナウイルス感染症の影響により、10月と3月に書面開催。 外部委員11名。

【整形外科症例検討会】 中止

令和4年度総括

当院は、令和2年の新築移転後より、外来新規患者が増加しています。

市内の開業医の先生からの外来受診・入院依頼や近隣の総合病院からリハビリ目的の転院依頼を受け入れています。

地域での新型コロナウイルス感染症が拡大し、協力関係機関への訪問件数は減少しましたが、地域の医療機関以外の居宅系介護事業所などへ積極的な訪問を行い顔の見える関係性の構築を目指し取り組みました。

居宅介護支援センター

職員紹介

猪股 博規（主任介護支援専門員）

介護支援専門員2名

業務内容

「居宅介護支援」は、居宅の要介護者が居宅サービス等を適切に利用できるよう、心身の状況、置かれている環境、要介護者の希望等を勘案し、居宅サービス計画を作成するとともに、サービス事業者等との連絡調整を行い、介護保険施設等への入所を要する場合は、当該施設等への紹介を行う。

居宅介護支援の提供に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、利用者に提供される居宅サービス等が特定の種類又は特定の居宅サービス事業者等に不当に偏することのないよう、公正中立に行う。

利用者及びその家族の意向も踏まえて、要介護認定の代行申請等に必要な援助を実施する。

令和4年度実績

登録数1,330件、実績数1,212件、稼働率：96.2%、平均担当数33.5件

総収入18,439,827円

新規受入77件

（内訳：地域包括支援センター59件、医療機関12件、家族2件、施設等6件）

加算算定114件

（内訳：初回加算49件、退院・退所加算8件、入院時情報連携加算47件

ターミナルケアマネジメント加算4件、通院時連携加算4件）

介護予防委託件数1件（延べ人数12件）

認定調査委託1件

研修参加16件（web研修14件、書面研修1件、集団研修1件）

令和4年度総括

居宅介護支援センターは、特定事業所加算の算定を継続し、質の高いケアマネジメントを提供する事業所として事業運営が図られています。

さらに地域包括ケア推進への取り組みの一環として、地域包括支援センターが主催する地域ケア会議の開催協力を積極的に行い、今年度は2件を開催しております。

新型コロナウイルス感染症の影響でWEB研修が主体的となっていましたが、規制緩和により集団研修の実施も増加し、コロナ禍前と同様に学びの機会も確保できました。研修の参加及び週1回の定期的な会議の実践によりケアマネジャーのスキルアップを図り、困難ケース等の受入も積極的に行うことができました。

登別市地域包括支援センターゆのか

職員紹介

菊池 豪（主任介護支援専門員）

保健師1名

社会福祉士1名

介護支援専門員2名

非常勤介護支援専門員1名

業務内容

1. 国の定める「地域支援事業実施要綱」の包括的支援事業【※1】において、介護保険法第115条の45第2項第1号～3、6号、法第115条の48の業務委託を登別市から受注。
2. 指定介護予防支援事業及び第1号介護予防支援事業の指定。
3. 地域支援事業【※2】に定められる一般介護予防事業の介護予防把握事業として、実態が把握できていない185名の80歳の方（昭和17年4月2日から昭和18年4月1日生まれの方が対象）の自宅訪問・調査委託を受諾。

※1包括的支援事業の具体的業務内容は、①総合相談支援事業、②権利擁護事業、③包括的・継続的ケアマネジメント事業、④介護予防ケアマネジメント事業、⑤認知症総合支援事業、⑥地域ケア会議推進事業となっています。

※2地域支援事業として、生活支援体制整備事業や在宅医療・介護連携推進事業、一般介護予防事業等の企画や実施に協力しています。

令和4年度実績

・総合相談支援事業

新規総合相談255件、延べ件数2,178件。本人と家族の相談延べ件数1,409件。医療機関220件。

相談方法は訪問570件、電話対応1,385件。

介護保険、在宅サービスに関する相談延べ件数2,141件、認知症関連366件、退院支援126件。

・権利擁護業務

高齢者虐待対応実人数12件、延べ37件。消費者被害相談対応実人数9件、延べ13件。

成年後見制度等相談実人数1件、延べ5件。

権利擁護事業に関わる普及啓発活動は、計10回で126人。町内会への通信発行や出前講座、研修会の開催を実施。

・包括的・継続的ケアマネジメント事業

コロナ禍により、メールや電話を活用し、地域の介護支援専門員を後方支援。支援回数は104件。

主にケアマネジメントや認知症関連に関わる相談支援26件、指導助言・個別支援55件。

また、市内介護支援専門員を対象としたオンライン研修会を2件開催。

・介護予防ケアマネジメント業務

老人クラブ・いきいきサロンへ出前講座5回開催。

住民主体の通いの場の探求に関する地域課題解決型ケア会議1件開催。

自立支援型個別ケア会議3回開催。

・認知症総合支援事業

認知症サポーター養成講座の開催：小中学校5校、一般住民向け1回、ステップアップ講座1回

認知症オレンジ通信の町内会回覧発行、SOSネットワーク協力機関6件追加

認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム等との連携。

登別市地域包括支援センターゆのか

- ・ **地域ケア会議推進事業**

相談及び活動件数20件、自立支援型個別ケア会議3件。

総合相談の地域課題分析、市役所との意見交換

- ・ **市及び他機関との連携**

市と包括支援センター代表者の会議を月1回。

市と各職種との定例会議を月1回、弁護士・司法書士、消費生活センター等との意見交換会。

在宅医療介護連携に関わる相談延べ件数946件。

- ・ **指定介護予防支援及び第1号介護予防支援**：3,434件、訪問及びカンファレンス1,808件

令和4年度総括

地域包括支援センターは、地域包括ケアシステムの中核を担う重要な機関として登別市より事業委託され、5名の常勤職員が担当しています。担当圏域は令和4年4月末時点で5,597名の高齢者がおり、要介護認定者数567名、要支援認定者数452名、事業対象者数7名です。

包括的支援事業を遂行し、延べ3,434件の介護予防ケアプランを作成。権利擁護普及啓発や出前講座の開催等、感染防止対策を実施して地域とのネットワーク活動を遂行しました。

また、オンラインを活用した各関係機関との会議出席や研修会の開催も企画し、地域の介護支援専門員資質向上の支援を実施しました。

総務企画課 総務

職員紹介

後藤 学（総務係長）
佐藤 正卓（経営企画係長）
一般職員(事務)2名
技能職員(電気・営繕)1名
非常勤職員(事務・清掃・保育)計7名

業務内容

人事・給与・労務・福利厚生・経営企画・文書管理・施設管理・営繕・保育・システム管理
この他、どの部署にも属さない事項を担当しています。

令和4年度実績

上記業務の実施

令和4年度総括

新型コロナウイルス感染症に感染した際の症状が軽くなっていくと反比例して感染力が増大し、当院でもクラスターが発生いたしました。職員が一丸となって普段以上に感染拡大を防ぐために努力し、重症化する患者もなく1か月弱で抑え込むことができました。

当部署はこのような時でも地域とのつながりをもちながら、病院が正しく機能するよう、また職員が少しでも快適な勤務環境となるように業務を行ないました。

総務企画課 経理

職員紹介

瀧川 純輝（契約係長）
岸本 真吾（経理係長）
非常勤事務員2名

業務内容

- ・ 予算・決算作成に関すること。
- ・ 資金調達、現金管理に関すること。
- ・ 物品購入、役務契約に関すること。
- ・ 固定資産に関すること。

令和4年度実績

新型コロナウイルス感染症の影響により、延入院患者数が対計画比▲638人で入院診療収益が減収となり、計画未達成となった。

一方、延外来患者数は対計画比+2,126人、診療単価も上昇し、計画達成となった。主な要因としては、地域の新型コロナウイルス感染拡大による発熱外来受診者が増えたことが考えられる。

令和4年度総括

新型コロナウイルス感染症の影響による診療体制の変更により、患者数や手術件数が減少しました。医療機器更新、保守契約を行い、長期的な経営視点から投資を行いました。

総務企画課 医事

職員紹介

新津 英俊（事務長補佐）
志和 正幸（算定病歴係長）
一般職員（事務）1名
非常勤事務員2名

医事委託業者：株式会社ソラスト11名
委託業務：外来受付・窓口業務

業務内容

- ・ 外来患者の受付、患者登録
- ・ 診療費の計算、収納会計
- ・ 未収金に関する督促業務
- ・ 診療報酬明細書作成、オンライン請求業務
- ・ 査定、返戻に関する業務
- ・ 労災保険、自賠責保険、公務災害に関する手続き及び請求業務
- ・ 訪問リハビリ・通所リハビリの請求に関する業務
- ・ 訪問看護の請求に関する業務
- ・ 施設基準に関する業務
- ・ 診療記録の管理に関する業務
- ・ 各種統計業務

令和4年度実績

【入院】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
在院患者延数	2,915	3,122	2,966	3,036	3,169	2,904	2,817	3,030	3,049	3,004	2,828	3,023	35,863
新入院患者数	74	74	73	82	79	77	82	73	85	47	72	75	893
退院患者数	66	75	79	74	76	92	75	68	96	38	65	85	889
一日平均入院患者数	97.2	100.7	98.9	97.9	102.2	96.8	90.9	101.0	98.4	96.9	101	97.5	98.3
病床利用率	88.3%	91.6%	89.9%	89.0%	92.9%	88.0%	82.6%	91.8%	89.4%	88.1%	91.8%	88.7%	89.3%
入院新患率	2.5%	2.4%	2.4%	2.6%	2.5%	2.6%	2.6%	2.4%	2.7%	1.5%	2.6%	2.4%	2.4%

【外来】

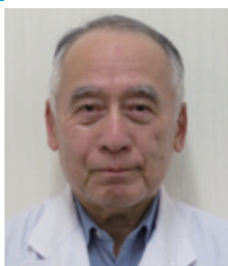
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
延外来患者数	1,619	1,708	1,919	1,679	2,064	1,865	1,781	2,004	2,083	1,752	1,607	1,980	22,061
外来新患者数	365	453	343	337	544	372	387	564	525	427	307	356	4,980
一日平均外来患者数	81.0	89.9	87.2	84.0	93.8	93.3	89.1	100.2	104.2	92.2	84.6	90.0	90.8
外来新患率	22.5%	26.5%	17.9%	20.1%	26.4%	19.9%	21.7%	28.1%	25.2%	24.4%	19.1%	18.0%	22.6%

令和4年度総括

- 9月：「二次性骨折予防継続管理料1、2、3」を届出
10月：「入退院支援加算2」から「入退院支援加算1」に届出変更
11月：「看護職員処遇改善評価料」を届出

健康管理センター

職員紹介



伊藤 美夫
(センター長)

新津 英俊 (事務長補佐)

非常勤事務員4名

業務内容

・生活習慣病予防健診・日帰りドック・法定健診・特定健診・簡易健診・乳がん検診、子宮がん検診等

令和4年度 健康診断実施実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診者数	241	224	298	278	202	216	205	311	222	196	208	128	2,729

健診区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般健診	115	91	96	89	78	78	61	81	61	67	62	54	933
人間ドック	7	33	55	62	64	60	64	60	48	28	21	17	519
特定健診	7	17	32	18	30	21	42	27	18	15	15	20	262
簡易健診	89	78	101	100	20	50	26	123	86	51	105	32	861
脳ドック	0	2	4	7	11	4	4	7	3	3	3	2	50
乳がん検診	3	0	1	2	3	3	6	1	1	2	5	1	28
子宮がん検診	3	1	3	9	3	7	5	6	7	0	11	7	62
特殊健診	2	1	0	1	2	2	6	1	4	22	2	0	43
その他	30	4	10	2	10	4	12	13	6	10	5	3	109
合計	256	227	302	290	221	229	226	319	234	198	229	136	2,867

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃カメラ	86	105	149	122	134	124	108	125	85	73	63	60	1,234
胃バリウム	36	34	36	32	40	35	29	27	22	36	31	15	373
腹部エコー	9	38	68	84	78	64	85	97	77	49	47	26	722
眼底・眼圧測定	15	47	85	103	118	94	102	101	87	48	36	38	874
乳がん(併用)	9	10	22	17	27	21	23	30	31	15	20	18	243
子宮がん(併用)	6	10	15	6	12	10	22	14	16	0	13	10	134
腰椎健診	50	57	1	49	1	0	0	0	0	0	47	0	205
その他	6	13	8	13	21	8	8	11	12	8	6	4	118
合計	217	314	384	426	431	356	377	405	330	229	263	171	3,903

令和4年度総括

令和4年度も前年度の収益を上回ることとなりました。最高収益の要因として、前年度以前に行っていた訪問営業活動や広告等の成果がでたこと、移転後の利便性がよくなったことに加えて、消化器科の医師が固定となり二次検診が多くなったことなどが利用者増加の主な要因として挙げられます。

委員会紹介

独立行政法人 地域医療機能推進機構 登別病院

JCHO登別病院

NOBORIBETSU HOSPITAL

委員会 医療安全委員会

委員紹介

委員長 鎌田 紀子（麻酔科部長）
副委員長 津野 幸子（副看護部長）
委員 堀 良行（副薬剤部長）／ 秋元 聡（副診療放射線技師長）
伊藤 洋介（副看護師長）／ 瀧川 博子（副栄養管理室長）
佐藤 正卓（経営企画係長）
臨床検査技師1名／理学療法士1名

業務内容

委員会は、月に1回、第3月曜日に開催。医療安全管理室の指示により、次の取り組み等の業務を行う。

- ①各部門におけるインシデント・アクシデントの原因及び防止方法並びに医療安全管理体制の改善方法についての検討及び提言
- ②各部署で改善策の周知・徹底及び、委員会において決定した再発防止策及び安全対策に関する事項の各部門への周知徹底
- ③各部門における医療安全管理に関する意識の向上

令和4年度実績

1. インシデント・アクシデント報告数・・・668件

①レベル別インシデント数

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5
456件	179件	21件	5件	7件	0件	0件

②分類別件数

薬剤163件 輸血0件 治療処置24件 医療機器2件 ドレーンチューブ10件 検査99件
転倒転落279件 誤飲7件 その他84件

2. 令和4年度医療安全研修・・・参加率95%

- テーマ ①磨け、コミュ力！医療安全のためのコミュニケーション
②チームの力で転倒・転落を予防する
③診療放射線従事者に対する診療放射線における安全管理

令和4年度 総括

令和4年度の報告件数が全体的に前年度より少なくなっているのに対し、レベル3bは7件と増加しました。7件の内5件は転倒による骨折であり、転倒・転落のアセスメントの強化が必要と考えます。

職員紹介

感染対策委員長 横山 豊治（副院長 ICD）
 感染対策副委員長 佐藤 香（看護師長）
 委 員 代田 充（内科医長）／江崎 克樹（整形外科医師）／阿保 信義（薬剤部長）
 津野 幸子（副看護部長）／阿閉 友美（副看護師長）／岸本 真吾（経理係長）
 石井 亮太（主任理学療法士）／菊地 由洋（主任作業療法士）
 看護師2名／臨床検査技師1名

業務内容

感染対策に強化・充実を図り、安心・安全な医療提供ができるよう活動を行う。

令和4年度実績

感染対策講習会……………2回/年
 感染管理加算Ⅲ……………取得
 感染対策地域ネットワーク……カンファレンス4回/年（オンラインにて開催）
 擦式アルコール製剤使用量……1日1患者18.36ml
 新型コロナウイルス……………クラスター1回（1月）

令和4年度
総括

院内感染症防止対策、特に新型コロナウイルス感染症対策として、標準予防策徹底、中でも手指衛生の徹底をリンクナースが中心となり活動し、職員教育を強化した。昨年に引き続き、来院者・新規入院患者からの院内持ち込みを最小限にするよう、スクリーニングの徹底を行った。職員の健康状態の管理も各所属長の協力を得ながら徹底していくことができたと考えます。

残念ながら、1月には回復期リハビリ病棟で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生。患者・職員を合わせ23名が発症、19日間診療体制の縮小を余儀なくされましたが、重症化する患者の発生もなく、他の部署に拡大することもなく終息することができました。全職員が協力し、感染対策に取り組むことで、感染拡大を最小限に止めることができたと考えます。

委員会 病床管理委員会

委員紹介

委員長 小澤 慶一（統括診療部長）
 副委員長 津野 幸子（副看護部長）
 委員 横山 豊治（副院長）／伊藤 早苗（看護部長）／小林 美喜枝（看護師長）
 平田 恵美子（看護師長）／長田 牧子（地域連携室長）／成田 元気（副理学療法士長）
 新津 英俊（事務長補佐）／佐藤 正卓（経営企画係長）／医事課事務員1名

業務内容

委員会は、月に1回、病院運営に関し、経営改善・患者サービス向上に向けた病棟管理及びベッドコントロールについて審議し、効果的・戦略的な病床管理をすることを目的とし会議を実施。また、小委員会を設け毎週木曜日、病棟間及び関連部門との連絡調整を実施している。

令和4年度実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西一般	平均在院日数	14.9	17.4	16.5	16.9	15.5	13.4	14.8	16.1	14.8	25.9	17.1	14.9
	看護必要度	14.6	24.8	27.5	19.8	17.8	17.7	25.7	23	18.4	23.2	27.1	23
	在宅復帰率	82.6	80.8	70.4	82.1	80	77.8	80.8	82.8	80	88.2	81.3	64
西包括	平均在院日数	17.1	14.5	12.4	15.1	23.2	15.8	10.9	23.5	11.7	19.9	14.4	14
	看護必要度	7.7	6.4	11.2	19.6	13.9	12.5	21.4	27	17.8	11.3	17.3	9.3
	在宅復帰率	73.7	94.4	75	95.2	78.6	83.3	94.7	76.9	82.2	90.9	88.2	90.5
回復期	平均在院日数	43.8	61.5	41.4	72.1	50.7	43.7	62.3	56.5	56.6	56.5	48.2	41.4
	在宅復帰率	66.7	75	79.3	87	71.4	76.5	72.7	88.5	79.3	100	73.1	86.7

分類	項目	前年度実績累計	当年度計画累計	当年度実績累計
入院	一日平均入院患者数	100.6	100	98.3
	患者一人一日当たり入院診療収益	39,736	40,029	39,933
	実働病床利用率	91.40%	90.90%	89.30%

令和4年度 総括

令和4年度の事業計画では病床稼働率90%以上、1日平均入院患者数100人、患者一人一日当たり金額40,000円を計画していました。コロナ禍の中、一時的に入院患者の受入れや、病棟間の移動を停止したこともあり、目標を達成できませんでした。

委員紹介

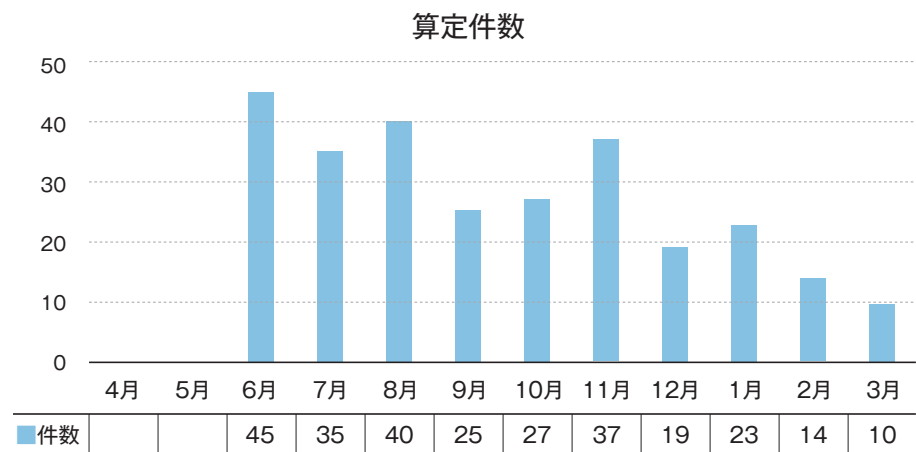
委員長 代田 充（内科医長）
 副委員長 瀧川 博子（副栄養管理室長）
 委員 堀 良行（副薬剤部長）／五十嵐 香（主任臨床検査技師）
 看護師2名／言語聴覚士1名／栄養士1名／医事課事務員1名

業務内容

- ・栄養スクリーニング、アセスメントの実施
- ・主治医、看護師等からのコンサルテーションへの対応
- ・栄養モニタリングと栄養計画の立案と実施
- ・低栄養患者への栄養指導
- ・NST回診、カンファレンスの実施

令和4年度実績

NST加算算定 275件

令和4年度
総括

NSTを継続するための体制づくりに取り組み、個々に合わせた適切な栄養介入が早期より実施できる体制の維持に努めました。

定例会議において、活動における問題点を職種間で共有しながらNSTの周知と活動の拡充を図りました。

委員紹介

委員長	小澤 慶一（統括診療部長）
副委員長	五十嵐 香（主任臨床検査技師）
委員	鎌田 紀子（麻酔科部長）／伊藤 早苗（看護部長）／小林 美喜枝（看護師長）
	堀 良行（副薬剤部長）／志和 正幸（算定病歴係長）

取り組み内容

- (1) 輸血の使用状況調査
- (2) 輸血療法実施時の検査・手順に関する事項
- (3) 輸血事故の有無
- (4) 輸血療法に関する情報
- (5) 上記の他、輸血療法全般に関する事項

令和4年度実績

輸血管理料Ⅱ、輸血適正使用加算取得

赤血球製剤の使用単位数は356単位、血小板製剤は20単位、新鮮凍結血漿は12単位、自己血は85単位であった。

25%アルブミン製剤の使用単位数は312.5単位であった。

令和4年度
総括

各血液製剤の使用は前年度比

赤血球製剤 50単位増

血小板製剤 20単位増

新鮮凍結血漿 12単位増

自己血 5単位増

25%アルブミン製剤 275単位増

赤血球製剤の廃棄は2単位、廃棄率は0.56%で前年度より1.34%減であった。

アルブミン・MAP比は0.7で前年度よりアルブミン製剤の使用が大幅に増えた為0.6増、

FFP・MAP比は0.01で前年度より0.01増であった。

委員紹介

委員長 代田 充（内科医長）
 副委員長 小林 美喜枝（看護師長）
 委員 堀 良行（副薬剤部長）／大波 聡司（主任理学療法士）
 専任看護師2名／栄養士1名／臨床検査技師1名／医事課事務員1名

業務内容

- ① 各病棟専任看護師が褥瘡危険因子の的確な評価がされているかの確認
- ② 褥瘡発生予防。適切なケアの実施
- ③ NST委員会と情報共有を行い、栄養管理の実施
- ④ 褥瘡回診の実施
- ⑤ 体圧分散寝具整備

令和4年度実績

発生状況11件

発 生 部 位	日常生活自立度	褥瘡の状態
仙 骨 部	C2	D2
胸 椎	C2	D2
両 踵 部	C2	D1
左 外 顆 部	C2	D2
胸 椎	C2	D2
右 大 転 子 部	B2	D3
仙 骨 部	B2	D2
仙 骨 部	B2	D2

持ち込み褥瘡件数	令和3年度 令和4年度	20件 15件
褥瘡発生率	令和3年度 令和4年度	0.09% 0.17%

令和4年度
総括

令和4年度の診療報酬改定により、褥瘡対策に薬学的管理に関する事項及び栄養に関する事項の見直しが求められました。それに伴い当院での「褥瘡診療計画書」の変更を検討しました。

令和3年度は体圧分散マットを購入し、使用していたマットと交換しています。今年度はクッション、車椅子用のクッションを購入し、危険因子をアセスメントし患者の状態に合わせた、適切なベッドマットやクッションの選択を行い、発生リスクの軽減を図りました。その効果、褥瘡発生件数軽減につながっていると思います。

今年度は入院時、褥瘡持ち込みの患者が15件と昨年度よりは減少していますが、低栄養患者や、睡眠剤や鎮痛剤を内服している患者が多く、褥瘡チームのメンバーとの情報共有を行い、新たな褥瘡が発生しないように努めました。また、NSTと情報共有を行い、栄養管理の早期の介入を行っています。

チーム内の活動として、オンデマンド研修の参加を行い知識の向上や新たな処置方法などを習得し、ケアに生かせる学習を深めました。

また、褥瘡回診は、新型コロナウイルスの感染状況に合わせ、主治医と病棟看護師、栄養士薬剤師と行いました。

附属施設連絡先一覧

健康管理センター

〒059-0598
北海道登別市登別東町3丁目10番地22
電話 0143-80-1137 FAX 0143-50-6848

地域医療連携室

〒059-0598
北海道登別市登別東町3丁目10番地22
電話 0143-80-1119（地域連携）
0143-50-6696（医療福祉相談）
FAX 0143-80-1121

訪問看護ステーション

〒059-0598
北海道登別市登別東町3丁目10番地22
電話 0143-84-1983 FAX 0143-80-1121

居宅介護支援センター

〒059-0016
北海道登別市片倉町6丁目9番地1
総合福祉センターしんた21内 2階
電話 0143-88-2107 FAX 0143-88-2108

登別市 地域包括支援センター ゆのか

〒059-0016
北海道登別市片倉町6丁目9番地1
総合福祉センターしんた21内 2階
電話 0143-88-2106 FAX 0143-88-2108

独立行政法人
地域医療機能推進機構登別病院

令和4年度 病院年報

発行：令和5年11月

発行者 石 川 典 俊

編集者 佐 藤 正 卓

片 沼 七奈子